

令和7年度
シラバス

教科・科目	地理歴史・地理総合	単位数	2
-------	-----------	-----	---

学年・クラス	3 学年（必修・選択）	担当者	森下 貴秋
使用教科書	帝国書院 高校生の地理総合、帝国書院 標準高等地図		
使用副教材	帝国書院 新詳地理資料 COMPLETE2025		

目 標

世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを考察し、多様性に富む現代に暮らす1人として未来にむけて何をすべきなのか考えることが目標です。

授業の内容・進め方

内 容：世界各地の生活文化の多様性について、自然環境・産業・民族・言語・宗教など課題意識を持って学習します
進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。

考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、表現力・資料活用の技術が試されます。

観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の	世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを関する諸資料を読みとり、その特色について理解することができる。	世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを多面的・多角的に考察し公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界各地の生活文化の多様性について地形や気候などの自然環境や産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりを考察し、多様性に富む現代に暮らす1人として未来にむけて何をすべきなのか考えることできる
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年3回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる

B：おおむね満足できる

C：努力を要する

・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	4	第1部 システムでとらえ る現代世界	1章 地図や地理情報 システムと現代世界 1節 地球儀と地図 2節 地図と地理情報 システム	地球儀や様々な図法の 地図から現代世界の姿を 読み取ることを通じて、 地図や地理情報システム の役割や有用性を理解し ている。	各種の地図にはどのよ うな特徴があるあるのか や地図や地理情報システ ムはどのように利用でき るかについて、多面的多 角的に考察し、表現して いる。	目的に応じた地図や地理情 報システムの活用の方法につ いて、主体的に追求し、課題 を見出している。 地球上における位置の違い によって生じている物事につ いて、主体的に追究し、課題 を見出している。
	5		2章 結びつきを深め る現代社会 1節 現代世界の国家 と領域 2節 地図から見る国 内や国家間	世界を構成する国家の 領域の定め方、地図を通 じて世界の国々の結びつ き方、交通、通信、人の 移動の特徴を理解してい る。国家の領域や世界の 国々の結びつきを見出す ための読図の技法を身に つけている。	国家の領域はどのよう に定められており、どの ような領土問題があるの かや世界の国々はどのよ うに結びついているのか について、地図を通じて 多面的・多角的に考察し ようとしている。	国家の領域の定め方や領土 問題、世界の国々の結びつき 交通・通信・人の移動の特徴 について、地図を通じて主体 的に追究し、課題を見出そう としている。
	6	第2部 国際理解と国際協力	1章 生活文化の多様性 1節 世界の地形と 人々の生活 2節 世界の気候と 人々の生活	世界の多様な生活文化 が自然環境や社会環境を 背景に、互いに影響を及 ぼしあいながら形成され てきたことを理解してい る。生活文化の相互性を 理解している。	地形や気候、産業とそ の発展、歴史、人の移 動、他の地域との結びつ きに着目しながら、世界 の生活文化の多様性がど のように形成されてきた かについて表現している	世界の多様な生活文化を尊 重し、共生を図っていくこと について主体的に追求し、課 題を見出している。 気候と深く関わりあいなが ら生活を築いてきたことにつ いて追究している
		前期中間考査				
	7		3節 世界の産業と 人々の生活 4節 世界の宗教 民族・言語生活	農業や工業の国際化や 技術の発達が生きてきた ことについて理解してい る。宗教・民族・言語は 人々の生活にどう影響を 与えたか理解している	自らの食生活をイメー ジしながら、農業の国際 化や技術の発展が世界の 人々の生活にどのように 影響を与えてきたかにつ いて多面的・多角的に考 察しようとしている	農業の発展が、自らの食生 活だけでなく、世界の人々の 生活も変えてきたことにつ いて、主体的に追求し、課題 を見出している。宗教・言語 の文化が民族形成や生活に与 えた影響を見出している。
	8		1 経済発展による変化 2 他地域との結びつき 3 ヒンドゥー教と世界文化	季節風が自然環境や社会 環境に与える影響や他 地域との結びつきを生み 影響を与えたか理解して いる。	季節風が自然環境や社会 環境に与える影響や他 地域との結びつきを生み 影響を与えたか多角的に 考察しようとしている。	季節風が自然環境や社会環 境に与える影響や他地域との 結びつきを生み影響を与えた か主体的に追究しようとして いる。
	9		1 乾燥地域の生活文化 2 植民地支配 3 伝統の継承	気候・風土が深く関係 し地域の生活と文化、特 徴が形成されてきたかにつ いて理解している。	古くから栄えた文明に着目 しながら乾燥地域の生活や産 業について多面的・多角的に 考察しようとしている。	乾燥した気候・風土がそこ での生活や産業に影響を与 えてきたことについて主体的に 追究し課題を見出している。
	10		1 寒冷な気候の生活文 化の工夫 2 産業技術の発展 3 開発の歴史と生活 4 結びつきの変化がも たらす生活文化 5 複雑にからみあう地 球環境	寒冷な気候の下で人々 が工夫しながら生活を築 いてきたことについて理 解している。 移民とそれを受け入れ てきた社会の活力が世界 の人々に影響を与える文 化や産業を産み出してきた ことを理解している。 ヨーロッパの人々の 進出が与えた影響を理解 している。	衣服や住居に着目しな がら寒冷な気候に対する すべてとして人々がどの ような生活上の工夫をし てきたかについて多面 的・多角的に考察しようとし ている。移民の歴史に着 目しながら世界の人々に 影響を与える文化や産業 がどのように産み出され てきたかを考察しようとし ている。	気候と深く関わりあいなが ら形成されてきた生活様式や 工夫について、主体的に追究 し、課題を見出している。 異なるものの融合によって 世界的に影響をもつ文化や 産業が産み出されてきた側面 と差別や格差が共生を難しく している側面について主体的 に追究し、課題を見出し、取 り組むことができる。

		前期期末考査				
学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	11		1 節 人口問題 2 節 食料問題 3 節 都市・居住問 4 節 感染・衛生問題	世界のどこでどのような人口問題・食料問題・都市問題が生じているか理解している。また、都市・居住問題の現れ方について理解している。	人口増加と人口減少の要因について多面的・多角的に考察しようとしている。食料問題について多面的・多角的に考察しようとしている。	人口問題・食料問題・都市問題が生じている場所や要因になっているのについて、主体的に追究、自ら課題を見出している。
		後期中間考査				
	12	第3部 持続可能な 地域づくりと私たち	5 節 資源・エネルギー 6 節 地球環境問題 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2 節 地震・津波や 火山活動と防災 3 節 気象と防災	世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。地形や気候に着目しながら、日本の自然環境の特徴について理解している。 火山の周辺に暮らす人が過去の教訓を踏まえ、行っていることについてその対策について理解している。	世界と比較した日本の自然環境の特徴について地形や気候に着目しながら多面的・多角的に考察しようとしている。 普賢岳や桜島の噴火の過去から火山周辺に暮らす人達がどのような対策をしてきたか多角的・多面的に考察しようとしている。	世界の地形や気候、自然の驚異について主体的に追究し、課題を見出し解決に向けて努力しようとしている。 人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について主体的に追究し、課題を見出している。また、その向き合い方について主体的に追究しようとしている
			4 節 自然の驚異へのおさえ 2 章 生活圏の調査と地域の展望 1 節 地理的な調査テーマの設定 2 節 事前調査と現地調査	自然の驚異による災害を最小限にするために必要な備えについて理解している。 生活圏の調査にあたって仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解しようとしている。 生活圏の調査を行う上で「問い」を立てることや事前調査が必要なことについて理解し、技能として身につけている。	事前の備えに着目しながら自然の驚異にどのように立ち向かえばよいかについて多角的・多面的に考察しようとしている。 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるかについて多面的・多角的に考察しようとしている。	事前の備えに着目しながら自然の驚異にどのように立ち向かえばよいかについて主体的に追究しようとしている。 生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究しようとしている。 自らの生活圏について「問い」を立てたり、事前調査方法を考えるなど、主体的に追究し課題を見出している。
		1	3 節 調査結果の分析 仮説の検証 4 節 調査結果のまとめ 地域づくりへの参加	現地調査の結果を分析・整理し、仮説の検証を行うことについて理解し、技能として身につけている。 現地調査の発表方法や調査結果を地域に還元するために必要な取り組みについて理解し、技能として身につけている。	他の地域の似た事例と比較するなど、仮説をどのように検証するのかについて、多面的・多角的に考察しようとしている。 調査結果の発表方法に着目しながら、現地調査の結果をどのようにまとめ、発表するかについて多面的・多角的に考察しようとしている。	自らの生活圏に対して「問い」を立てたり事前調査方法を考えたりするなど、主体的に追究し課題を見出している。 調査結果を地域に還元するという視点をもちながら調査結果のまとめ方や発表のしかたについて、主体的に追究し、表現しようとしている。